

《保健科学研究科博士後期課程 保健学専攻》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。  
 ・ディプロマ・ポリシーをさらに細分化している場合には、それを項目として用いることができる。

科目名	ディプロマ・ポリシー	主要授業科目	【1. 複合的な知識・理解】	【2. 先端的技能】	【3. 独創性・探求心】	【4. 自立性・発展力】	科目の教育目標	
			高度化・専門化する医療・保健の専門知識を基盤に、複合的な視点で医療・保健を評価・分析・理解する能力を修得している。	医療・保健のリーダーとして、最先端の専門的教育・研究技能を備え、地域社会や国際社会に情報発信する能力を修得している。	保健科学の新しい研究領域を切り拓く独創力と探求心をもち、豊かな医療・保健を要する社会にリーダーシップを発揮できる能力を修得している。	修得した知識と研究経験をもとに、自由な発想により、医療・保健の発展に寄与する学術的かつ総合的で、独創性と革新性のある研究を遂行する能力を修得している。		
全専攻系共通カリキュラム科目	生命倫理概論		◎	○			生命倫理学、臨床倫理学、社会倫理、個人情報保護、実験動物愛護等について概説できる。	
	臨床心理学		◎	○			臨床心理学の基礎的理論・技法および今日の課題を説明できる。	
	社会医学・疫学・医学統計概論		◎	○		○	社会医学・薬学・歯学等に関して、授業目的に示した講義内容の理解が深まることを目標とする。	
	英語論文作成法		○	◎		◎	21世紀に医学、歯学、薬学、栄養学、保健学の各分野で活躍する人材は英語が堪能であることが要求される。本授業ではこれらの領域で用いられる独特の英語表現法に関わる基本的知識を修得することを目的とする。	
	生命科学の研究手法		◎			◎	医科学・生命科学研究に必須の初歩的技術が理解できる。	
	医療系分野における知的財産学概論		◎	○		○	1. 知的財産制度の全体像を理解する。 2. 研究活動や医療に必要な知的財産制度の内容を理解する。 3. 社会人として活動するに際して役に立つ知的財産制度の内容を理解する。	
	生命科学コミュニケーション特論		◎	◎			学生が英語を介して、生命科学における多様な知識を得ること、それらを理解し、簡潔にまとめて発表し、科学的な議論を行うスキルを向上させる。	
各専攻系間の共通カリキュラム科目	ヒューマンサイエンス(形態と機能)		○		○	◎	1. 科学的、論理的な理解、説明ができる。 2. 細胞の基本構造と機能を説明できる。 3. 遺伝子情報の仕組みを理解できる。 4. 膜輸送、情報伝達の仕組みを説明できる。	
	微生物・免疫学実習		○	○		◎	微生物学及び免疫学の基本的な手法を習得する。	
	臨床医科学概論		◎	○	○		循環器、呼吸器、消化器、神経・筋、内分泌・代謝、血液の各臨床領域における代表的な疾病につき、発生機序および原因となる遺伝子などの異常、そして各々の疾患の病態生理を理解させ、最新の診断および治療法の理論と実践を学ばせる。	
保健学専攻共通科目	先達保健医療学	○	◎	◎	○	○	保健医療学における課題を理解する。	
	クラスターセミナー		◎		○	○	領域横断的・学際的研究を自律的に遂行できる生命科学研究者を育成することを目的とする。	
専門科目	研究支援科目	看護学研究方法論		◎	◎	◎	看護学研究者として自立して研究活動を行うために必要な高度な研究手法を修得する。	
		臨床試験学		◎	◎		「臨床試験」の目的、内容について及びCRC(臨床試験コーディネーター)の仕事について理解する。	
		医用情報解析学		◎	○	○	保健学研究における多様な観点から生体情報の解析原理・方法を学び、研究方法の新しいアイデアを想起する能力や幅広い問題解決能力を養う。	
	生涯健康支援学領域	生涯健康支援看護学特講	○	◎	○	○	○	各自の研究課題に関連付けられることができる。
		生涯健康支援看護学特講演習	○	○	◎	○	○	生涯健康支援看護学特講をふまえて、先行研究を概観し、研究課題や方法論の理解を深める。
		生涯健康支援看護学特別研究	○	○	○	○	◎	看護学の論文作成
		生涯健康支援医療学特講	○	○	○	○	○	こころの不調や病状について適切に把握し、その支援方針を考えることができるようになること。
		生涯健康支援医療学特講演習	○	○	○	○	○	身体疾患を適切に理解し、支援方法を修得すること。 精神疾患を適切に理解し、正しい対応方針を習得すること。
		生涯健康支援医療学特別研究	○	○	○	○	◎	心の病気や不調のメカニズムの解明と有効な治療法や支援法の開発に貢献すること。 更年期にみられる諸症状に対して、予防や治療および支援によって、その後の生活のQOLに与える影響を検討すること。
	医用情報科学領域	医用情報工学特講	○	◎	○	○		医用画像診断機、および医用画像処理システムの開発・改良のための基礎知識から最先端の手法までを修得する。さらに、放射線生物学に関する最新の知見について理解を深める。
		医用情報工学特講演習	○	◎	○	○		医用情報工学分野における先端的計測・処理・解析手法、画像再構成、コンピュータ支援診断、画像領域分割などに関する課題と最近の動向を把握し、研究を遂行するため、国内外の関連文献の精読・討論を通して問題を明確にし、研究の計画立案、理論構築方法、実験方法、問題解決方法を修得させる。
		臨床画像診断・解析学特講	○	○	◎	○	○	看護研究の必要性和意義が説明できる。 研究における倫理的配慮について説明できる。 系統的文献検索ができる。 研究論文のクビティークを行うことができる。 調査研究に関する研究方法について説明できる。 実験研究に関する研究方法について説明できる。 質的研究に関する研究方法について説明できる。 研究計画書の基本的な構成とその重要性が説明できる。 研究成果の公表と効果的なプレゼン方法について説明できる。
		臨床画像診断・解析学特講演習	○	○	◎	○	○	放射性核種の特性および生体情報の収集方法とその解析法を学び、各種病態に応用する能力、問題解決能力を養う。
		医用情報科学特別研究	○	○	○	○	◎	医用基盤技術開発や臨床応用の観点から先端的研究を推進する能力を修得する。
病態制御保健学特講		○	◎	○	○	○	各種疾患の発症機序の生理学的、細胞生物学的、分子遺伝学的、免疫組織学的、病理学的な解析手法を学び、疾患の病因・病態を解明することの意義について教授する。	

医用検査 学領域	病態制御保健学特講演習	○	◎	○	○	○	生命科学領域の各種疾患や虚血性心疾患の発症、先端保健医療技術に関する内外の文献を講読し、研究の進め方について教授し、また疾患の治療や予防支援技術の研究開発に必要な手法に関する演習を行う。
	病態制御保健学特別研究	○	◎	◎	○	◎	疾患の病因・病態について生理学的、分子生物学的、免疫学的、病理学的、微生物学的など種々の手法を用いて解析し、疾患の予防・治療を支援する技術開発について研究・指導する。
連携領域	宇宙医科学特講		○			◎	宇宙環境における特殊な栄養素代謝を理解する。
	宇宙医科学特講演習		○			◎	宇宙環境における特殊な生理状態に関する最新の情報について講読する。
	宇宙医科学特別研究		○			◎	宇宙と医学について研究を行い学会や論文を通じて成果を発表する。